

2025 年の九頭竜湖およびその周辺における特定外来生物 ウチダザリガニの分布調査結果

福井県自然保護センター*¹・保科英人²

要旨：福井県の九頭竜湖およびその周辺において特定外来生物ウチダザリガニの分布調査を実施した。2025 年秋季に九頭竜湖内 4 地点および湖外 3 地点にカゴ罟を仕掛けたところ、ウチダザリガニは九頭竜湖内 4 地点で捕獲され、九頭竜湖外では捕獲されなかった。

キーワード：特定外来生物、ウチダザリガニ、分布調査

Fukui Nature Conservation Center*¹, Hideto HOSHINA². 2026. Distribution of designated invasive alien species *Pacifastacus leniusculus* in and around Lake Kuzuryu in 2025. Ciconia (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center) 29:91-94.

Designated invasive alien species *Pacifastacus leniusculus* (signal crayfish) exist in Lake Kuzuryu, Fukui. In fall 2025, we set cage traps at four points in the lake and three points around the lake. We caught signal crayfish at four points in the lake, and no crayfish outside the lake.

Key words: designated invasive alien species, distribution, *Pacifastacus leniusculus*, signal crayfish

はじめに

福井県大野市の九頭竜湖には、北米原産の大型甲殻類ウチダザリガニ *Pacifastacus leniusculus* が生息している (保科 2011, 一般財団法人自然環境研究センター 2019)。本種は雑食性で、底生生物などを捕食し、生態系に影響を及ぼすことが知られている (Crawford et al. 2006, Machida and Akiyama 2013)。日本では外来生物法に基づき特定外来生物に指定されているほか、「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」においても「緊急対策外来種」に指定され、防除の必要性が高い。

ウチダザリガニは一度定着すると根絶は極めて困難であり、完全に排除した事例はほとんどない (Usio ら 2007)。九頭竜湖は釣りや観光で訪れる人が多く、人為的な移動による拡散リスクを否定できない。現状を把握し、拡散の兆候を早期に検知することは、外来種の予防的管理の観点から不可欠である。また、こうした情報は、防除計画や啓発活動の基盤となり、地域の自然環境の価値を維持するために重要である。

福井県自然保護センターでは 2020 年から秋季に九頭竜湖およびその周辺においてウチダザリガニの分布調査を実施している。本報告では 2025 年の調査結果を報告する。

調査地と調査方法

調査地

主な調査地である九頭竜湖は福井県大野市の東部に位置する、1968 年に竣工された九頭竜ダムによりできた人造湖である (図 1)。面積 8.9 km²、最大水深 100 m、最低水位標高 529 m である。九頭竜湖のウチダザリガニは 2011 年に初確認されており (保科 2011)、以降、九頭竜湖およびその周辺において分布調査を実施しているが、これまで湖外では確認していない (福井県自然保護センター・保科 2025)。

九頭竜ダムの貯水位は調査日の 2025 年 10 月 24 日は 540.50 m、10 月 30 日は 542.47 m であった。

分布調査

湖内は大谷橋、箱ヶ瀬橋、面谷橋、伊勢川橋の 4 地点で、湖外は九頭竜湖上流に位置する荷暮、九頭竜川下流に位置する谷戸橋、近接した別水系の笹生川ダムの 3 地点で、分布調査を実施した (図 2)。各調査地点におけるカゴ罟の設置日一回収日、設置数を表 1 に示す。円筒形のカゴ罟 (図 3) の中に誘引餌として魚のアラを入れ、調査地点付近の固定物とビニールロープで連結した上で、カゴ罟を湖底に設置した。設置 1 日後または 2 日後にカゴ罟を引き上げ、カゴ

* 執筆者：佐野沙樹 Written by Saki Sano. E-mail: sizen-ci@pref.fukui.lg.jp (福井県自然保護センター窓口)

1 〒912-0131 福井県大野市南六呂師 169-11-2

Minamirokuroshi 169-11-2, Ono, Fukui 912-0131, Japan.

2 〒910-8507 福井大学教育学部、福井県福井市文京 3 丁目 9-1

Faculty of Education, University of Fukui, Bunkyo 3-9-1, Fukui, Fukui 910-8507, Japan.

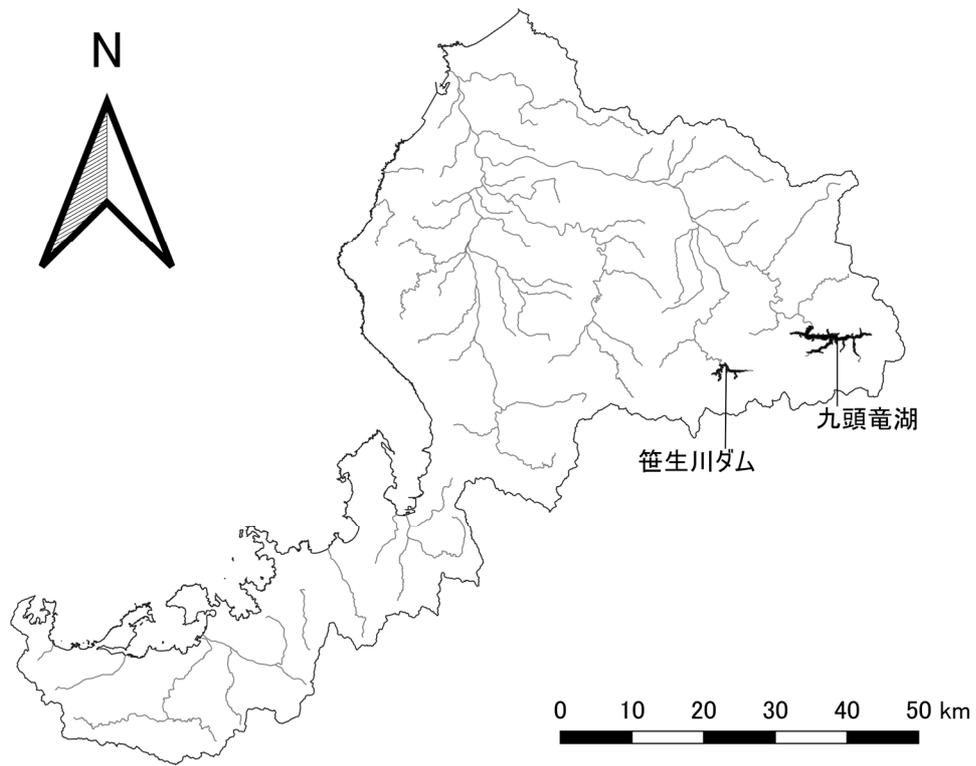


図1 調査地の位置

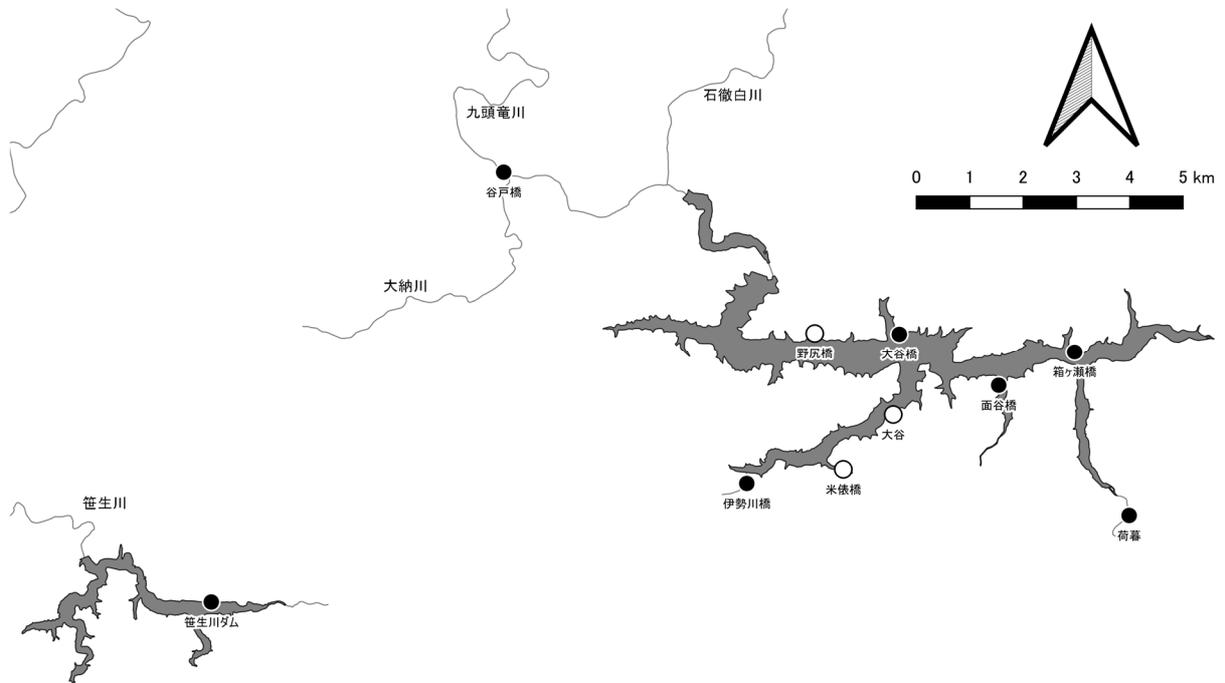


図2 2025年の調査地点の位置 (●). ○は過年度調査を実施したが2025年は実施しなかった地点



図3 円筒形のカゴ罠 (2020年10月23日撮影)。

罠の中の捕獲物を確認した。捕獲したウチダザリガニは雌雄を識別し、頭胸甲長を計測した後、すみやかに殺処分した。調査時にウグイ3匹、コクチバス1匹を混獲した。ウグイは速やかに再放流した。コクチバスは特定外来生物なので、速やかに殺処分した。

調査にあたり、国土交通省近畿地方整備局九頭竜川ダム統合管理事務所九頭竜ダム管理支所へ作業を届出た。また福井県奥越土木事務所へ道路通行占有を届出、笹生川・浄土寺川ダム統合管理事務所へ連絡した。さらに、福井県漁業調整規則に基づき、奥越漁業協同組合および大野漁業協同組合から特別採捕(カゴ罠による捕獲)の同意を得て、福井県(水産課)から許可を受けた。

結果

ウチダザリガニは計37個体捕獲された。湖内では、大谷橋、箱ヶ瀬橋、面谷橋、伊勢川橋の4地点で確

認された(表1)。捕獲効率は箱ヶ瀬橋で6.25個体/(個・日)と最も高く、他地点を大きく回った。

一方、九頭竜湖上流支流の荷暮、下流の谷戸橋、近接する別水系の笹生川ダムでは、ウチダザリガニは捕獲されなかった。

捕獲個体の頭胸甲長は、オスで中央値65.0mm(最小値35mm~最大値80mm)、メスで55.0mm(40mm~70mm)であった(表2)。

考察

箱ヶ瀬橋では例年同様、捕獲効率が高かった。また、過去の調査では2021年に野尻橋、2022年に米俵橋、2024年に伊勢川橋で新たに捕獲が確認されている(表3)。これらから、九頭竜湖内では東側で生息密度が高く、西側へ分布を拡大してきたと考えられ、現在は湖全域に生息域が広がった可能性がある。一方、流入部や下流部、近接する別水系の3地点では2025年も捕獲されなかった(表1)。現時点では周辺河川への侵入は確認されていない。

ウチダザリガニは、イギリスの河川で年間1km以上の上流方向への移動や、より速い下流方向への拡散が報告されている(Johnsen and Taugbøl 2010)。さらに、陸上を歩行してダムを越える事例もある(Johnsen and Taugbøl 2010)。これらから、人為的な導入以外にも、ウチダザリガニが自力で拡散するリスクは否定できない。福井県における生態系被害を未然に防ぐため、今後も分布域の拡大傾向や個体数の変動を継続的に監視する必要がある。

表1 2025年の各調査地点におけるウチダザリガニの捕獲数

調査地点	緯度	経度	わな 設置日 - 回収日	わな 稼働日数 (日)	わな 設置数 (個)	捕獲数(個体)			捕獲効率 (個体/ (個・日))
						オス	メス	計	
大谷橋	35.8787	136.7165	10/22 - 10/24	2	2	0	1	1	0.25
箱ヶ瀬橋	35.8751	136.7528	10/22 - 10/24	2	2	15	10	25	6.25
面谷橋	35.8696	136.7369	10/22 - 10/24	2	1	0	1	1	0.50
			10/29 - 10/30	1	4	4	3	7	1.75
伊勢川橋	35.8537	136.6842	10/22 - 10/24	2	2	1	2	3	0.75
谷戸橋	35.9075	136.6349	10/29 - 10/30	1	2	0	0	0	0.00
荷暮	35.8471	136.7635	10/29 - 10/30	1	2	0	0	0	0.00
笹生川ダム	35.8351	136.5727	10/22 - 10/24	2	1	0	0	0	0.00

表2 2025年に九頭竜湖で捕獲したウチダザリガニの頭胸甲長別分布.

性別	捕獲地点	頭胸甲長 (mm)										合計
		35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	
オス	箱ヶ瀬橋			1	1		3	5	3	1	1	15
	面谷橋	1	1		1	1						4
	伊勢川橋								1			1
	小計	1	1	1	2	1	3	5	4	1	1	20
メス	大谷橋								1			1
	箱ヶ瀬橋		1		3	1	3	2				10
	面谷橋		1	1	1	1						4
	伊勢川橋					1			1			2
小計	0	2	1	4	3	3	2	2	0	0	17	
合計	1	3	2	6	4	6	7	6	1	1	37	

表3 2020年~2025年秋季の九頭竜湖におけるウチダザリガニの捕獲効率の推移.

調査地点	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
野尻橋	0.00	0.25	1.00	0.75	0.00	未実施
大谷橋	8.00	0.25	1.50	1.75	4.50	0.25
箱ヶ瀬橋	37.50	12.25	0.00 - 4.75	5.50	7.25	6.25
面谷橋	4.50 - 8.67	1.00 - 14.33	0.67 - 1.75	10.00	2.00-3.00	0.50-1.75
大谷	1.50	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施
米俵橋	0.00	未実施	1.25	1.25	未実施	未実施
伊勢川橋	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.75

引用文献

- Crawford, L., W. E. Yeomans., & C. E. Adams. 2006. The impact of introduced signal crayfish *Pacifastacus leniusculus* on stream invertebrate communities. *Aquatic Conservation Marine and Freshwater Ecosystems* 16: 611-621.
- 福井県自然保護センター・保科英人. 2025. 2024年の九頭竜湖およびその周辺における特定外来生物ウチダザリガニの分布調査結果. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告) 28: 111-115.
- 保科英人. 2011. ウチダザリガニの福井県からの記録. *福井大学地域環境研究教育センター研究紀要「日本海地域の自然と環境」* 18: 19-24.
- 一般社団法人自然環境研究センター. 2019. ウチダザリガニ. 「最新日本の外来生物」平凡社, 東京. pp. 248-249.
- Machida Y., & Akiyama, Y. B. 2013. Impact of invasive crayfish (*Pacifastacus leniusculus*) on endangered freshwater pearl mussels (*Margaritifera laevis* and *M. togakushiensis*) in Japan. *Hydrobiologia* 720: 145-151.
- Johnsen, S.I., & Taugbøl, T. 2010. NOBANIS - Invasive Alien Species Fact Sheet - *Pacifastacus leniusculus*. Online Database of the European Network on Invasive Alien Species - NOBANIS www.nobanis.org (2025年12月18日アクセス確認)
- Usio, N.・中田和義・川井唯史・北野聡. 2007. 特定外来生物シグナルザリガニ (*Pacifastacus leniusculus*) の分布状況と防除の現状. *陸水学雑誌* 68: 471-482.